



1年生交通教室



今日は、1年生の交通教室が行われました。東署から3人、地域の交通安全協会の方々7人を講師に迎え、横断歩道の渡り方を学びました。4月13日(水)の熊日新聞の記事によると、「県警の過去5年間の統計で、歩行中に交通事故に巻き込まれた小学生の死傷者は計262人。1年生は75人で全体の3割近くを占める。1年生は視野が狭いため、道路への飛び出しも多い(中略)。」とあります。なお、交通事故が最も多いのは、5月と10月だそうです。これは、学校に慣れた5月、夏休み明けから少し気が緩む10月が多くなるのだと推測されるそうです。



今回の交通教室は、警察からのお話や、横断歩道の渡り方の実技、シュミレーションというモニターを使った実技等があり、充実した安全教室となりました。

「帯西イエロー」の心で交通ルールをしっかり守って、「帯西ブルー」の心で、自分の命はしっかり守って欲しいと思います。お家でも、通学路の危険箇所を確認したり、交通ルールについて今一度話題に挙げたりしていただくと幸いです。

あいさつが飛び交う学校に!

朝から、交通指導に立つと、子供たちから元気の良い「おはようございます。」の声が聞かれます。あいさつによって気持ちのよいスタートが切れます。学校教育では、「あいさつ」の大切さが長らく語られ、実践が行われてきています。今月の生活目標も「友達や先生、学校に来られた方に立ち止まってあいさつをしよう」です

あかるく

元気な声で

いちばんに

相手より先に

さわやかに

最高の笑顔で

つねに

いつも、どこでも、だれにも

あいさつのヒント



生活委員会の自主的な挨拶運動

「挨拶」の語源は仏教・禅宗にあるとされています。禅問答において、一方が相手の力量を測るための積極的な攻め込み、突き進む「挨」があり、すかさず切り返す「拶」があって相手の境地、力量を見定めあう丁々発止のやり取りの様子をあわせた言葉なのです。

現代における「あいさつ」は、人と人とのコミュニケーションの基本であって、人種は違っても、また大人も子供も全ての人になくってはならない心の潤滑油になっています。あいさつをすると、①相手により印象を持たれる、②相手と仲良くなるきっかけになる、③自分や相手の緊張をほぐすことができる、④相手の存在を認めているということを示すことができる、⑤感謝の思いを伝えることができる、などメリットを挙げるときりがありません。大人になっても、入社後すぐの研修で、「あいさつ」を始めとするお客様との関係性を築ける、いわゆる接遇の研修が大切にされています。

それでは、あいさつをするときは、どんなことに心がけるといいのでしょうか?そのヒントとなるのは、児童玄関に掲示してあります(左表参照)。あいさつのヒントを見て、ぜひ生活の中に活かして欲しいと思います。さて、朝から、学校の黄色門や緑門を見てみると、生活委員会の子供たちが、あいさつ運動をしていました。これは、自分たちで話し合っ、あいさつ運動をすることを決めたそうです。たくさんの気持ちのよいあいさつが飛び交い、帯西グリーンがたくさん登場するような学校でありたいと思います。